

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホームシリウス姫神		
所在地	盛岡市洪民字駅105		
自己評価作成日	平成28年8月11日	評価結果市町村受理日	平成28年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&ji_gyosyoCd=0390100154-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通り3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所時には、多様な症状で入られる方が多いので、認知症になっても笑顔でずっと見守れるような支援をするところの説明をしております。又状態が悪化した時には、ここでの設備では十分な対応できないことも説明し、その方に適したところを紹介したりしてGHの特質を理解していただいています。ご家族様には、安心だと話されています。初めて来ていただいた方には「きれいな所ですね」と話されます。生活習慣病も食生活から改善でき、薬が減った方もありました。運営推進会議をととして入所者や退所の方がスムーズに支援できるようになったと思います。職員は幅広い年代層の女性スタッフからなり、他の職業を経験した方が、さまざまな特技を生かして、快適な生活が出来るように支援してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洪民駅から程近く木造平屋建ての全館床暖設備があるホームである。近隣には、児童館・小学校・医院・スーパー等もあり、生活する上で利便性がある場所に立地している。この環境のもと、利用者は、日々姫神山の景色と、敷地内の花壇の花を眺めながら、季節の移り変わを楽しみながら生活している。管理者をはじめ、職員は種々の持っている資格(介護福祉士、看護師、美容師等)と積み上げている豊かな経験を活かしながら「笑顔でずっと見守る穏やかな日々」を目指し、ケアを提供している。事業所としての看取りの体制はとっていない。恵まれた地域資源と関係機関との連携を活かしながら、身体状態が変化し住み替えが必要になった時でも心配なく安心した生活が継続できる支援をしている。契約時に、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退所を含めた事業所の対応可能な範囲について丁寧に説明を行っている。退所に際しては、利用者及び家族の意向を踏まえた上で、地域の社会資源のネットワークを活用した相談支援に取り組み、退所後の住処を選択できるようにサポートしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的や運営方針を掲げて、実現する為に職員と話し合い、家族の思いをこめてキャッチフレーズにし掲示して実行しています。(笑顔でそっと見守る穏やかな日々を目指します)	新人職員の研修(試用期間)を通し、理念の意義、捉え方について学び、伝え合うことで職員間での共有にもつながっている。また、日々のケアを提供する中で困難事例に向き合った時に、ケアを考える拠り所として活用している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	犬の散歩がてら立ち寄って、犬と触れ合いながらボランティア活動にも参加していただいたり、入所にもつながってきました。	保育園の子供達が公園への散歩の途中立ち寄って利用者に声をかけてくれる。また、地域にある文化会館に出かけ、コンサート・民謡大会・文化祭等、地域の行事への参加等は、利用者が楽しみながら地域の人々と交流できる機会になっている。地域の自治会には、加入していない。	地域住民の一員として地域の人達たちとの関わりを積極的に持つことも大切であることから、地域組織活動を行っている自治会等に参加することで、事業所が地域と友好関係に発展していくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の認知症ケアを、運営推進会議や地域のケア会議をととして、地域の方に理解していただき、困難事例にも対応できるようになってきました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に現状を伝えることで、ホームの現状を親身に考えていただいています。地域のさまざまな情報も交換できて「認知症の方の行く所がない、シリウスでユニット増やしてよ」と話されたこともありました。	自治会長等、地域から2名、地域包括センター職員含め約5名のメンバーで、定期開催している。駐在署員や、利用者が参加することもある。家族へも出席の案内をしているが、参加が難しいケースが多い。利用者の状況、家族から頂いた意見等、現状の報告や課題について、地域資源等情報を共有しながら解決策を見出す場になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請、更新時はもとより、地域の会議や勉強会では各種情報をいただき、サービスの充実につながってきています。事業所の情報は運営推進会議録で市へ毎回報告しています。	年に数回開催している地域会議は、役場で開催している。保健師等関連職種が集まり、勉強会の他、困難事例について共有できる場になっている。直接、役場担当者を訪ね、個別に相談することもある。担当者は、解決につながるよう丁寧に		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルにて学習、理解し見守りや適切な介助で、身体拘束をしなくても良いような援助を職員同士が心がけています。	利用者の行動で、外出の気配を察知したら、抑えるのではなく見守りの姿勢で向き合い、「息子さんが来るまで待とう」等不安や混乱の軽減を図っている。居室のベット柵に鈴の工夫、居室入口ドアの少しの開放等を取り入れている。身体拘束に関する対応マニュアルを教材として職員研修を行い、身体拘束をしないケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、マニュアルにて学習、理解し虐待が起きないように職員間でも注意している。研修に参加して職員の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は、成年後見制度を利用する方がありましたが、資料を参考に勉強会をしました。管理者は、高齢者権利擁護推進員要請研修を受講して、職員と学習しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用事前調査を行い、家族や本人の意向を確認し、契約の締結や解約は、重要事項説明書にて納得、安心できるまでわかりやすく説明しています。こんな事教えてくれる人はいなかったと話された方もありました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いは、表情で感じ取り、家族からは電話やメール、面会時での確認、定期報告(毎月)写真やお便り、みんなの声を設置しています。運営推進会議にて報告し、ご意見をいただきながら運営に役立てています。	家族に、毎月送るお便りと利用者の写った写真等を通して、意見・要望を聞き出すようにしている。家族の面会時は、居室に案内し、利用者を囲み近況を伝えながらも伺う姿勢をもって対応している。出された意見・要望は、運営会議で共有し、話し合いに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の変化を全体的に把握し、職員とコミュニケーションをとりながら意見をもらい、職員会議で検討し、実績報告にて本社へ報告し、運営に役立てている。	日々の業務についての問題点等は、連絡ノートで共有し、解決することもある。職員会議は、昨年度は実施したが、今年度は実施していない。管理者は、日常業務の中で個々の職員の意見を聞くよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日々の生活状況を理解、把握し、各自の能力が発揮しやすいように環境整備に努め、代表者に報告しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順番に参加できるようにしています。管理者は職員が自ら学ぼうとすることを大切に、事業所で必要とする研修も、タイミングをみて受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し、定例会で職員が必要とする研修を受けられるような年間計画を立て参加している。見学会や相談、交換研修、避難訓練などお互いに参加協力する。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急性の高い状態で入所される方が多いので、納得のいくまでお話を聞く事にしています。自分を納得させる言葉が見つかるまで、根気強く声かけしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族の思いを受け入れて事業所で行えることを説明し、ホームの運営方針を理解、納得していただくことで安心されます。事務的に行うことで、信頼関係が築けると思い努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定基準に基づき入所決定し、GHの特質を説明し、介護計画で調節しながら支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守り見守られながら共に広い範囲の会話を心がけて、できる生活の場面を大切にしながら一緒に行っています。髪に飾るシュシュを編んでくれたりして、家族に見守られているように感じる時があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	申請者の家族だけでなく、遠い家族、親戚、途切れた家族が、本人を主にして面会に来てくれる事例が多くなってきた、これからも来やすい環境づくりをしていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達、親戚、隣の方が来てくれた時は、ゆっくり過ごせる場を作り、デジカメで写真を撮ってあげたりしています。家族との外出、外泊も大切にしています。	家族の支援を受けながら、昔から行っていた理髪店に出掛け、馴染みの理容師に理髪してもらい、懐かしい昔を思い出すための刺激にもなった。知人等の面会時は、利用者と一緒に映した写真をプリントして差し上げる等、その後の継続的な交流につなげる働きかけも行っている。また、ドライブを兼ねた買い物・外食に出かけ、新たな馴染みの関係を築くことにもつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士も、見守ってくれたり、話しかけたりに行ってくれたりする事があります。「皆と一緒にいる事は楽しいな」と言う方もありました。具合が悪くない限りホールで過ごされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、お世話になったCMさんとおして、次につながっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用始めに確認しますが、状態の変化を見逃さずケース記録を参考にしながら、職員や家族と話し合いながら、その方らしい生活が出来るように支援しています。	担当者が記録する日々の利用者個人の記録の内容から把握することもある。普段の生活を支援する中で、言葉や表情の変化等から、思いや意向をキャッチするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、CM、本人、家族、面会時など身内の方から、お話ししていただける分を確認しています。施設では施設なりに、自由な生活をしてほしいと話しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を参考にしながら、日々の介護場面においても、日内変動に注意し、有する力を発見して、職員からの情報も加え現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録やモニタリングを参考にしながら家族、本人の思いを介護計画に入れて作成し、日々の変化は、評価表で確認し、3ヶ月で介護計画の見直しをしながら現状に即した計画にしています。	プランに沿った毎日の記録は、利用者個々の状況の変化が分かる記録内容になっており、交代勤務者や、チームでも共有し、活用している。計画の見直しは、利用者、家族の意向、そしてかかりつけ医師、担当職員の意見等を取り入れながら行っている。概ね、3ヶ月ごとにモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り帳に個別の記録を行い、毎日出勤者は出勤してきたら、個々の状態をケース記録で確認し、介護計画や見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要な事で、私達にできる事を誠意を持って行う。家族から誰もそんなこと教えてくれなかったと話された。行政との手続きも施設で行える事は代理している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議から広がった、社会資源を活用しながら、若い方(保育所)～(高齢の方)シルバー人材センターまで、はば広く交流が出来るようになりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に通院介助したり、家族が連れて行ってくれたり、急変時には家族と連絡しながら対応し、夜間や休日にも対応してくれるので、安心につながっています。	受診時の職員同行については、状況に応じて、対応している。医療者、家族との情報共有の手段は、主に口頭(電話も)で行っている。ほとんどの方が、地域内の医院がかかりつけ医である。夜間・休日対応もあることは、利用者・家族・職員の安心にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには、看護師が介護職ではあるが勤務しており、介護、看護にもつながりが強い為、利用者への支援も心強いと感じています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医への通院、緊急時の入院できる病院、その後の入所施設、地域包括支援センターの連携も出来ているので本人、家族への安心にもつながっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、その状態に合う対応をする事を入所時に説明しています。家族も納得されているので、状態にあった病院、施設の相談しながらスムーズに対応できるようになってきました。運営推進会議も活用しています。	入居契約時に、利用者・家族に対して、事業所が対応できる支援について説明している。利用者の日々の状態変化を職員間で共有し、かかりつけ医に相談しながら、病院や、他施設への移り替えまでの支援を細やかに行うことで、利用者・家族の不安と負担の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に、事故発生時対応マニュアルにて学習し、消防署の指導のもと心肺蘇生法を受講し、看護師からもその都度教えてもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルにて、開所前に学習し、避難訓練は、年2回昼夜の時間帯を想定し避難訓練をしています。他のGHとも、災害時の協力体制を作りました。避難訓練に参加。非常食も賞味期限を確認しています。	春に実施した1回目の訓練は、「竜巻」を想定した事業所職員での訓練であった。2回目の訓練は、「火災」を想定した消防署員も参加の訓練で、今月予定している。災害時の緊急避難用語等について、資料を職員に提供し、学習している。災害用の非常食を常備している。	災害の発生では初動体制が重要である。現在の取り組みの継続を図りながら地域の人たちを巻き込んだ防災訓練対策の更なる強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関するマニュアルにて開所前に学習し、職員も常に声かけや対応に注意しています。認知症になってもプライドは残っている事を、全員が周知して仕事をしている。	利用者個々のその人らしさを大事にすることを意識し、トイレ誘導時は、さりげないケアを行っている。管理者と職員は、事例をとおして確認し合い、学んでいる。職員が一人で抱え込まないで、みんなで支え合いながら利用者の人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を大切にし、その方の状態を全体的に把握し、信頼関係を大切にしながら、思い込みに注意して、本人の求めているものを感じ取るように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の状態は全部違うので、状態に合わせて介護計画を作成し、見直ししながらマイペースな生活が出来るように支援している。「自由に過ごしてください」と話しながら。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、なじみの美容院や床屋に行ったりしています。家族も「おばあがおばあに切ってもらってきたよ」と話されました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作ったりする事が出来るような方が今はいなくても、何かしら出来るような時は、一緒に行っています、職員も食事介助しながら一緒に食べています。	栄養バランスを考慮した献立表は、職員が交代で作成している。小正月等の行事食の提供もある。誕生日の食事でのお寿司は、利用者に好評であった。職員が利用者の間に座り、話に耳を傾けながら、安全に配慮し落ち着いた環境で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて提供し、定期的な血液検査を受けた時に、食事や生活だけで体調が改善し、薬も減ったりしたことがあり、医師から「たいしたもんだ」と話します。献立は10品目が摂れるチェックシート使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアも日に3回、必ず職員の介助で行いモレの無い様注意しています。口腔ケア用品も日光消毒し口腔ケアの質を高めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の状態に合わせてトイレ誘導、介助行い、基本私達はトイレで排泄が出来るように、排泄記録も確認しながら支援し、日中は失禁が少なくなっています。	排泄チェック表を活用しながら、個々の排泄パターンを把握している。日中は、利用者全員がトイレで排泄することを支援している。居室にポータブルトイレを置いている利用者もいる。細やかなトイレ誘導を実施した結果、改善が見られている。使用済のパットを隠す利用者に対して、焦らずに見守りを行いながら、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便はトイレでを基本に、記録を大切に、出ない時には下剤のある方は調節し、便秘を予防しています。食事でも毎朝牛乳、夕食の乳製品を摂り入れています。適度な運動も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望が確認できる方は、希望に添うよう行い(一番風呂に入りたい)身体状況に合わせて、入浴方法も工夫している。できる事は自分で行ってもらいが、全員が介助の元、安全な入浴を行っています。	入浴日は、隔日になっている。希望のある時や必要な時は、随時、対応を行っている。洗髪(長い髪のため)の苦痛と不安からか、入浴を拒否する利用者もいる。その都度、家族と相談、職員間で対応を検討しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時から、自然な睡眠が取れるような方は少なく、夜間せん妄や不穏状態で入所する方がほとんどなので、原因を探し改善し、生活のリズムを整えられるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が主に通院介助を行い、近況を説明し、症状に合わせた薬が処方され、その変化は申し送りノートで、確認し、服薬は職員が声だし確認しながら誤薬を防いでいます。生活リズムが整うことで減薬につながっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を生かしながら、出来た時には、皆の前でお礼をしています、自分も役に立っているとか、認めてもらえたいという満足感を大切にしています。誕生会には得意の曲を歌ってくれます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や、季節や地域の社会資源を活用し、外出外泊できる方は、自由にでかけています。地域からも招待を受けるので活用しています。	西根への食事ドライブを行った。秋には沼宮内にある産直へのドライブを予定している。利用者の希望も含め、その時々利用者の状況、有する力等を観察しながら支援している。天気の良い日は事業所の玄関先で外気浴等、戸外に出る機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、できる範囲で支援しています。こっそり置いていく子供たちもいるので注意しています。時々置き忘れがあり、被害妄想にもつながりますが、一緒に探しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って入所してきた方もいますが、難聴なのでかかってきた事すら聞こえず、内容は忘れ、あまり良い事にはつながらないが、それはそれで良いかと思っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は常に整理整頓し衛生的かつ安全に考慮し、この家に守られていると思い、大切に生活しています。始めて来た方には「きれいな所ですね」とよく話されます。	全館床暖房設備の中で、食堂・厨房・面会コーナーは一体化した造りで、職員が見守りをしやすい環境になっている。事業所が開設5周年記念時の利用者が写っている写真が掲示されている面会コーナーは、窓から庭の花や畑の野菜の成長を眺めることが出来る。家族と思い出をゆっくり語る場としても活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	動くものを見ていると、気持ちが和むことがあるので、窓際には談話室を設け、そこに座ったりしながら外を見たり、家族との談話をするのに使っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや位牌なども持ってくるかがありました。活動の時に作った力作を部屋中に飾って、部屋づくりをしています。	全ての居室での室温調節ができる環境のもとで昼寝をする利用者もいる。誕生会・敬老会等で、家族や事業所からプレゼントされた置き物、衣装箱等が置いてある。チェストは設置されている。ベッド等持ち込みは自由になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体は、認知症の方が安全に過ごせるように工夫されています。個室は、入所者の状態に合わせてベットやチェストを配置換えしながら安全に生活できるように工夫しています。		